

福祉体験学習



6月20日、社会福祉協議会の福祉教育メニュー事業で、「福祉体験学習」を行いました。

今回のテーマは、『視覚障害者の理解』でした。神石高原町内に在住されている視覚障害者の方と、一緒に生活している盲導犬に来ていただいて、「視覚障害者の生活」「盲導犬の役割」「視覚障害者への補助の仕方」などについて、お話をしてもらったり、質問をしたりして学習しました。

(たくさんの質問をして学習しました。)

- ①目が見えなくなってどんな気持ちになりましたか。
- ②生活で困ることはどんなことですか。 ③買い物はどうされているのですか。
- ④どんなときにこわいと感じますか。 ⑤もう導犬はどのようなことをしてくれるのですか。

実際に、アイマスクをつけて「目が見えない状況」や「補助の仕方」について、体験学習をしました。



目が見えないって、こわい！



「右に曲がります」の声かけで安心！



「段差があります」補助は、声をかけながら、一緒に歩くことが大切！



盲導犬とのふれあいもさせてもらいました。

(普段は、勝手にさわってはいけません！)

ぼくは、初めてもう導犬を見たり、さわったりしました。もう導犬の背中のバッグには「工作中」と書いてあって、ふつうの犬ともう導犬の見分け方やもう導犬にはいけないことが分かりました。

学習を終えて

アイマスクをつけて、目が見えない人の気持ちを体験しました。どこに何があるか分からないし、ものがあつたりするのでとてもこわいと思いました。目の大切さや目の見えない大変さがよく分かりました。いつか、目の見えない人や体が不自由な人が困っておられたら真っ先に助けたいと思います。

大切なことを学んだ福祉体験学習でした。

